

【添付資料】

日本管理会計学会 2026年度 第1回 関西・中部部会 <参加案内>

【関西・中部部会】

日時：2026年6月20日（土）13：30～17：40

場所：自由ヶ丘キャンパス 本館3階 311教室

〒464-0044 名古屋市千種区自由ヶ丘2丁目49-2

<https://www.ait.ac.jp/about/jiyuugaoka-campus/>

開催方法：対面・遠隔のハイブリッド方式

<対面ご参加> 最寄り駅：名古屋市営地下鉄 名城線 自由が丘駅

本キャンパスは駐車場キャパシティが十分でなく、恐縮ですが公共交通機関をご利用ください。

地下鉄1番出口で地上にでて、右側へまっすぐ進み、最初の交差点角（横断歩道を渡った先）に自由ヶ丘キャンパスがございます。正面入り口よりお入りいただき、正面エレベーターにて3階までお進みください。3階エレベーター前に受付がございます。

<Webご参加> Zoom：参加URL：お申込みいただいた方に、別途、案内させていただきます。

※ Zoomご参加の際には、表示名を「ご所属・お名前」としてください。

■お申込み・ご連絡先

<参加申込> 以下URLからご入力ください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/s7RET3e1CG>

<その他お問合せ> 愛知工業大学 経営学部 柗 紫乃

e-mail：s\_hiragi@aitech.ac.jp

<当日連絡先>（柗 携帯）090-4257-8349

【参考】 関西・中部部会役員会

日時：2026年6月20日（土） 関西・中部部会 開催前

場所：自由ヶ丘キャンパス 本館3階 311教室

開催方法：対面・遠隔のハイブリッド方式

※詳細については、別途、関西・中部部会 事務局よりご連絡があります。

以上

【添付資料】

日本管理会計学会 2026年度 第1回 関西・中部部会 <プログラム>

部会進行にあたっての説明 13:30~13:35

◆ 開会の辞 13:35~13:40

関西・中部部会長 南山大学 窪田祐一氏

◆ 第1部：特別講演 13:45~14:45 (講演50分, 質疑応答10分)

株式会社 東海理化 生産調査部長 今泉 雅善氏

「DX (AI) 時代における TPS の本質の更なるシンカを目指して」

(休憩 15分)

◆ 第2部：自由論題報告 15:00~17:35 (別紙, 発表要旨参照)

司会：愛知工業大学 柗 紫乃

第1報告 15:00~15:35 報告25分, 質疑応答10分

報告者 (遠隔)：下田卓治氏 旭川市立大学 教授

論題：健康経営優良法人認定の経済的効果

第2報告 15:40~16:15 報告25分, 質疑応答10分

報告者 (対面)：榎本哲也氏 南山大学 大学院博士後期課程

論題：テンションの変化に応じた業績測定システムの改良と活用プロセス

－アクション・リサーチによる業績指標の構築－

第3報告 16:20~16:55 報告25分, 質疑応答10分

報告者 (対面)：大西淳也氏 津田塾大学総合政策学部 教授

論題：大学の業務効率化・業務改革についての考察

－管理会計の観点から－

第4報告 17:00~17:35 報告25分, 質疑応答10分

報告者 (対面)：吉川晃史氏 関西学院大学 教授

論題：デジタルを活用したトヨタのコストマネジメントとグローバル展開

◆ 開会の辞 17:35~17:40 準備委員長 柗 紫乃 (愛知工業大学 教授)

【懇親会】 18:30~20:30

※ 事前にお申込み下さい。当日は、会場にて受付時に会費をお支払いください。

※ 自由ヶ丘近辺には会場にできるお店が少なく、地下鉄名城線で一駅移動した本山駅近くの飲食店にて開催予定です。予約のため事前のお申込みをお願いします。お申込みいただいた先生方には、別途事前案内を申し上げます。予算はお一人5,000円程度を見込んでおります。

以上

◆ 自由論題 報告要旨

第1報告

報告者（遠隔）：下田卓治氏 旭川市立大学 教授

論題：健康経営優良法人認定の経済的効果

報告要旨：

本研究では、健康経営優良法人認定の効果を検証するため、PSM、DID、イベントスタディ分析を実施した。2017年時点の事前共変量を用いたPSMの結果、マッチング前に確認された売上規模、成長率、産業構成の不均衡は、マッチング後にはすべての共変量で標準化差が概ね0.1未満となり、処置群と対照群の特性は十分に均衡化された。PSM後サンプルを用いたDID分析では、2020年以降ダミーと認定ダミーの交互作用項は、Tobin's Q、ROA、ROEのいずれにおいても正の係数を示したものの、5%水準では統計的に有意ではなかった。この結果は、健康経営の取り組みが直ちに財務数値へ結びつくわけではなく、平均的な処置効果としては限定的であることを示している。さらに、Sun and Abraham (2021)に基づくイベントスタディ分析では、Tobin's Qにおいて認定取得年の係数が統計的に有意な負の値を示した一方、取得後数年では正の係数が観察された。これらの結果は、健康経営優良法人認定の影響が短期と中長期で異なる可能性を示しており、効果の時間的推移を考慮した分析の重要性を示唆している。

第2報告

報告者（対面）：榎本哲也氏 南山大学 大学院博士後期課程

論題：テンションの変化に応じた業績測定システムの改良と活用プロセス

ーアクション・リサーチによる業績指標の構築ー

報告要旨：

本研究の目的は、業績目標間の緊張関係（テンション）の変化に応じて、業績測定システム（PMS）がどのようにテンション・マネジメントを支援しうるのかを明らかにすることである。

社会性と収益性の両立のような複数目標の追求は、組織に持続的なテンションをもたらす。本研究では、障がい者雇用を目的とした営利事業を行う社会的企業を対象にアクション・リサーチを行った。「障がい者雇用」と「利益獲得」をめぐる既存のテンションのバランスをとる事業の拡大に伴い、新たに「障がい者雇用」と「障がい者就労支援」をめぐるテンションへと焦点が変化するなかで、それに対応したPMSの改良と活用プロセスを分析した。

その結果、新たなテンションの顕在化に応じて業績指標が着想され、現場での解釈や対話を通じて意思決定や認識共有に用いられていた。本研究は、PMSが動的なテンションの見える化と調整を支援しうる可能性を示唆する。

## 【添付資料】

### 第3報告

報告者（対面）：大西淳也氏 津田塾大学総合政策学部 教授

論題：大学の業務効率化・業務改革についての考察 – 管理会計の観点から –

報告要旨：

本稿では教職員の人件費割合の高い文系中心の小規模大学を想定し、そこでの業務効率化と業務改革の進め方について考察する。最初に、大学をめぐる状況について整理し、業務フローが重視されていないことを述べる。次に、業務フローの観点から検討し、階層別の大中小の業務フローと業務量の把握が重要であることなどについて言及する。そして、BPRの観点から検討し、プロセス設計ドリブンと現場提案ドリブンの2つの視点があることを示す。その後、現場の不可視性の観点からは改善活動が重視され、そこでは衛生要因（不満足要因）を起点とする改善活動が大きな改革につながりやすいことを述べる。そして、マネジメント・コントロールの観点から検討し、業務フローの存在を前提にイネープリング・コントロールを考慮すると、現場提案が組織戦略の修正までも視野に入れることができることについて整理する。DXについてもビジネス・プロセスの改革とビジネス・モデルの改革の2つがある中で、現在は前者にとどまっていることについて述べる。その後、以上の論をまとめ、大学の業務効率化・業務改革の実施プロセスについて考察する。そこでは、大学の業務効率化等の現状を整理の上、管理会計論の観点から考えられる今後の進め方について示唆する。そして、業務量の捻出と戦略的業務への業務量投下の重要性について言及し、学長のリーダーシップがキモとなることを述べる。最後に、まとめと今後の課題について言及する。

### 第4報告

報告者（対面）：吉川晃史氏 関西学院大学 教授

論題：デジタルを活用したトヨタのコストマネジメントとグローバル展開

報告要旨：

本報告では、2000年代のトヨタ自動車のコストマネジメントに着目し、デジタル化の推進、GBL（グローバル・ボデー・ライン）の導入、およびBT2活動を通じた徹底的な原価低減の取り組みのもとで、同社がリーマンショック前後の急激な外部環境の変化にいかに対応していったのかを外部資料や当時の社員からの聞き取り調査から明らかにする。

以上